

農林総合技術センター発足5周年

～ グリーンウェーブ創刊30号 ～

グリーンウェーブ30号の発行にあたって思うこと。

農林総合技術センター所長 堀 信雄



堀 所長

農林総合技術センターだよりグリーンウェーブは、農業試験場の広報誌として平成5年に第1号が発行され、今回で30号を数えることとなりました。

この間、本県農業・農村を取り巻く情勢は、戦後農政の抜本的改革となる「食料・農業・農村基本法」の制定（平成11年）、中山間地域直接支払の開始（平成12年）などにより大きく変わってきております。また、戦後最悪の米不作となる冷害の発生（平成5年）、鳥インフルエンザの発生（平成16年）など大きな災害にも見舞われました。

こうしたなか、グリーンウェーブは農業試験場の広報誌として、さまざまな試験研究の内容を広く県民に紹介し、試験場をより身近に感じ、ご理解いただけるよう編集・発行してまいりました。

平成19年度からは、農業試験場、畜産試験場、林業指導センターそして農業大学校が一つになり、新たに農林総合技術センターを発足しました。以後、グリーンウェーブはセンター全体の広報誌として編集・発行を重ね今日に至っています。

これからも、農林総合技術センターは、県農林業を取り巻く環境が大きく変化し続ける中で、さまざまな問題に迅速かつ的確に対応していくために、組織力・総合力を発揮し、試験研究、高度技術普及、担い手育成に取り組んでまいります。そして、こうした取り組みをグリーンウェーブに載せて皆様に広く紹介させていただくとともに、皆様の率直な意見や要望を遠慮なくお寄せいただき、双方向の情報誌として育てていきたいと思っています。引き続きご愛読をお願いいたします。



オリジナルユリ「プチソレイユ」

<主な内容>

『グリーンウェーブ30号発行にあたって思うこと。』

◇各部の取り組み

『オリジナルリンドウ「西京の初夏」を育成』

『エコフィードで繁殖雌豚の飼料費を節約！』

『厳しい生育環境にある海岸部での造林技術の開発』

『やまぐち就農支援塾は“新たな農業の担い手”を育てます!!』

◇トピック紹介

『環境負荷低減を目指した「エコ50マニュアル」の発行』

『土壌診断ソフト「できすぎ君」を開発』

『農業技術功労者表彰受賞』

～農林総合技術センター所長～

～農業技術部 花き振興センター～

～畜産技術部 放牧環境研究室～

～林業技術部 林業研究室～

～農業研修部～

～農業技術部 土地利用研究室～

～技術指導室～

オリジナルリンドウ「西京の初夏」を育成

花き振興センターは、露地栽培では全国で最も早く開花する極早生系オリジナルリンドウ「西京の初夏」（品種登録出願中）を育成しました。

花は明るい青紫色で、くすみはほとんどありません。出荷のピークは6月上旬から7月上旬と既存の品種より1カ月早いのが特徴で、他産地と競合せず有利な販売が期待できます。

平成24年春から県内の生産者が栽培を開始し、切り花は、平成25年6月からの出荷が見込まれています。

今後も、「西京の初夏」に続く早生系の新品種の開発に取り組んでいきます。



極早生系のリンドウ「西京の初夏」



県内露地栽培で6月上旬から7月上旬に開花

エコフィードで繁殖雌豚の飼料費を節約！

畜産技術部では、エコフィードを肥育豚へ給与することにより、飼料費が低減できることを既に紹介しましたが、繁殖雌豚でも同様の効果があることを確認しました。

繁殖雌豚に対しては、市販配合飼料にエコフィードを10～30%の範囲で混合したものを給与することが可能で、飼料費を節減できることがわかりました。

具体的には、主に飼料費節減効果を期待する場合には30%、分娩成績を考慮する場合には10%の混合率がそれぞれ適切です。

当部では、エコフィードだけでなく、乾麺やパンくずなど県内で発生するその他の食品循環資源も活用するとともに、飼料用米も組み合わせて、県内産原料を最大限利用した肉豚肥育用飼料の開発に取り組んでいます。

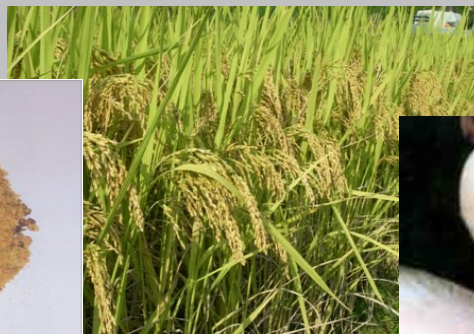
エコフィード：食品の製造・流通過程で発生する残さを原料にして製造された飼料



繁殖雌豚



エコフィード



飼料用米



肥育豚

厳しい生育環境にある海岸部での造林技術の開発 ～コンテナ育苗の取組み～

林業技術部では、厳しい生育環境にある海岸部での造林技術の開発に取り組んでいます。白砂青松というように、マツ（特にクロマツ）は塩分や乾燥に強く、海岸部での造林に適した樹種ですが、クロマツでも風当たりの強い場所での植栽や植栽後に土壌の乾燥が続いた場合には、多数の枯損が発生することがあります。

植栽する苗木は、苗畑から掘り取る時に根が切れてしまう普通苗よりも、根鉢の付いたポット苗の方がより乾燥に強いとされていますが、ポット苗は根が絡まり合うことによって周囲に根を張りにくい場合があります。

そこで、根鉢付きでかつ根が絡まりにくいマルチキャビティコンテナ（以下、コンテナ）で、クロマツを育苗する研究を行っています。コンテナの底は空いており、空中に浮かせて育苗するため、底に達した根は空気に触れ成長を止める仕組みです。現在、クロマツに適した培地配合やかん水間隔等を試験しています。



育苗状況



マルチキャビティコンテナ内部



やまぐち就農支援塾は“新たな農業の担い手”を育てます！！ ～農業研修部（山口県立農業大学校）の取組み～

農業研修部では、農業を職業としたい方や退職・離職等を機に就農を希望する方を対象として、基礎から学ぶ実践研修「やまぐち就農支援塾」を開催しています。

今年度は、就農への動機付けから、新規就農に向けた幅広い就農支援と、集落営農法人等のオペレーターの技術向上研修等さまざまな研修を実施しました。

来年度も幅広い研修ニーズに応え、“新たな担い手”の育成につながる研修として「やまぐち就農支援塾」を開催していきます。



入門研修（果樹）の研修風景



担い手養成研修の野菜定植実習

23年度の開催状況（H23年11月末現在）

研修名	受講者数	研修内容
短期研修	7	農作業体験で就農の動機付け研修（5日間）
入門研修	38	野菜、果樹で休日に栽培の基礎を研修（年間9～13回程度）
担い手養成研修	37	雇用研修生を対象に本格的な農業を開始するための実践研修
集落営農法人研修	10	法人等のオペレーターの技術向上

【お問合せ先】TEL（0835）38-0510

県農林総合技術センター農業研修部やまぐち就農支援塾

トピック紹介

環境負荷低減を目指した「エコ50水稻栽培マニュアル」の発行

センターでは、水稻の生産量を確保しつつ、化学肥料や化学農薬を慣行基準量から合理的に50%以上削減する技術（エコ50）を確立することを目的に、平成19～22年の4年間にわたって研究に取り組み、この度「エコ50水稻栽培マニュアル」を発行しました。

本マニュアルは、エコ50に取り組む地域の指導者を対象に、技術の導入判断や作業の手順などを整理したもので、内容は、①化学農薬低減技術、②化学肥料低減技術、③組み合わせに有効な技術、④エコ50水稻栽培技術体系の経営評価の構成になっています。

なお、マニュアルはセンターホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a17201/00000003/gijyutusriryou.html

1 化学農薬低減技術

(1) 1成分で複数の病害に効果を示す薬剤や残効期間の長い（水稻長期持続型箱施用剤）殺虫殺菌剤の選択

【技術の概要】

地域で防除が必要となる病害を選定し、効果的な水稻長期持続型箱施用剤を活用します。また、薬剤の選択にあつては、1成分で複数の病害に効果がある薬剤、収穫期まで残効のある薬剤を選択します。例年の病害虫の発生状況を参考に、薬剤の選択を行うことで使用成分の削減ができます。



いもち病



紋枯病



コブノメイガ被害



フタオビコヤガ

土壌診断ソフト「できすぎ君」を開発

土壌分析値からの施肥量の計算は、複雑な計算式と様々な知識が必要です。今回開発したソフトは、作物ごとの診断基準値と利用する肥料の番号を入力するだけで施肥量の計算が完了します。過剰な場合はマイナス値で表示されるため、どれほど過剰なのかが具体的にわかります。また、生産者の方が本ソフトを利用して、異なる肥料で施肥量を計算することもできます。

今後、農林事務所で行う土壌分析は、順次本ソフトを利用した処方箋に切り替えていく予定です。

なお、本ソフトはセンターのホームページからダウンロードして利用できます。

http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/dojobunseki.html

施肥の提案	肥料の種類	従来	新しい施肥量(案) と 肥料名	コメント 作土深15 仮比重1で計算
	りん酸質肥料	20	-344 (Kg/10a) BM重焼燐(1.0倍率)	石灰多く、pH低い。硫酸、硝酸過剰等に注意
	加里質肥料	20	42 (Kg/10a) 珪酸加里	
	石灰質肥料	100	-149 (Kg/10a) 炭酸苦土石灰	
	苦土肥料	10	254 (Kg/10a) 硫酸マグネシウム	
	速効的な元肥 1	20	6 (Kg/10a) 園芸有機A801	鶏糞の窒素で元肥窒素を削減
	速効的な元肥 2	20	20 (Kg/10a) IB複合燐加安 604	土壌の窒素は元肥を削減できる程ありません。
	速効的な元肥 3	10	10 (Kg/10a) 有機入り複合6号	

宮田明義農業技術部長が農業技術功労者表彰を受賞

当センターの宮田農業技術部長は、平成23年11月16日、東京都千代田区の学士会館において、農業技術功労者表彰を受賞されました。

この表彰は、農業技術・経営の研究又は普及に顕著な功績を挙げた個人へ授与されるもので、昭和19年から行われており、今回で67回目となります。

今回の表彰は、「高糖系温州みかんの高品質・安定生産を可能にする隔年交互結実栽培技術」等の開発及び普及により、柑きつ産業に寄与した宮田部長の功績が高く評価されたものです。

なお、本県からは2人目の受賞となります。



宮田部長が育成した「せとみ」
(商標名:ゆめほっぺ)



宮田部長

<山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL(083)927-7011 FAX(083)927-4386

URL http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/index.html

※ 皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。